

TOPIC

「放射性治療薬開発に関する国際シンポジウム in 福島」を開催 福島から世界のトップランナーとして ゲームチェンジャーを目指す

令和5年4月設立予定の福島国際研究教育機構(F-REI)基本構想の先行研究として、文部科学省から本学が受託した「放射性治療薬開発に関する国際シンポジウム in 福島」が、南相馬市で国内外の研究者18名の卓越した講演に加えて、現地と国内外からのウェブ参加を合わせて総勢361名を得て、1月28日29日の二日間にわたり無事開催されました。

福島への復興を願い、欧米並びに学外の専門家との学術交流と放射性薬剤の安全普及に向けて、規制当局の課題整理や人材育成などが議論されました。

ラジオセラノティクスの臨床応用に向けた期待

文部科学省からは、復興庁そしてF-REIと緊密に連携し、本学の核医学、特に放射性薬剤を用いて治療と診断を一体的に行うラジオセラノスティクスの臨床応用に向けて大きな期待が寄せられました。

講演ではセッション1において、サイクロロンを使った放射性薬剤製造の歴史からアスタチン標識薬剤の合成に関する最新の研究が報告され、さらに欧州や米国での放射性薬剤の承認制度の紹介と、国内PMDAの放射性薬剤の規制と承認の現状と課題について多くの質疑応答が行われました。

セッション2では核医学治療への新たな期待から人材育成の試みとその必要性が紹介



放射性治療薬開発に関する国際シンポジウム in 福島 竹之下誠一理事長兼学長挨拶風景

されました。

薬事承認に向けた目標発表も

二日目に行われたセッション3では、本学においてに世界に先駆けて行われているアスタチン-211を用いた標的アイソトープ治療(TRT)の今後の展開や目標が紹介されました。

特筆すべきは、セッション4で行われた臨床医からみたRI治療への現状と今後の展望・期待と課題について闊達な議論が行われたことでした。すでに核医学の分野を超えて、臨床応用に向けた取組が広がり始めていると言えるのではないのでしょうか。

シンポジウム開催に当たっては、竹之下誠一理事長兼学長が「本シンポジウムが研究者間の交流と連携を促進するとともに、国際共同

研究の人材を確保することで、今後のF-REI活動の強化につながることを期待している」と挨拶を述べました。

そして、文部科学省の木村直人大臣官房審議官が「将来に向けての人材交流・連携の機会を創出するための第一歩になる」と期待を込めました。さらに、機構初代理事長予定者の山崎光悦氏が「F-REIにおいて令和5年度以降、創薬医療分野の最先端の研究開発を推進していく」と強調しました。

オールジャパンで世界に冠たる研究開発と人材育成

山下俊一副学長が「福島医大は、引き続き、放射線防護と安全利用に向けてオールジャパンの協力体制で世界に冠たる研究開発と人材育成に邁進する」と締めくくり、今後の展開が期待されます。

写真は発言順



竹之下誠一理事長兼学長



木村直人文部科学省
大臣官房審議官



山崎光悦福島国際研究教育機構
初代理事長予定者



山下俊一副学長



次期理事長予定者に、 竹之下誠一現理事長を選出

本学は、1月13日(金)、理事長選考会議を開き、次期理事長予定者として、竹之下誠一現理事長を選出しました。

理事長選考会議の結果を受けて、竹之下理事長は、同日夕刻より本学において共同記者会見に臨みました。会見ではメディアを前に、次期理事長予定者として、次のように抱負を述べました。

「これまで2期6年間、『変化を進化へそして新しい価値の創造へ』というスローガンの下、『レジリエンス(しなやかさ)』と『アイアンス(連携)』をキーワードに福島県と

本学の復興に適進してまいりました。

新たな創生のステージへ

今後、私たちは新たな創生のステージを迎えます。これまで我々が積み重ねた知見、経験、研究成果などを確実に次世代(将来世代)に伝え、発展させていく段階へと進むということです。

それを象徴するのが浪江町に設置される福島国際研究教育機構です。私たちは福島の地に根ざす大学として世界の知見や研究成果をあまねく地域と県民に還元



し、福島の復興と未来の創造・発展に貢献するとともに、県民に寄り添いながら医療を提供し、健康を支える大学であり続けるといこととなります。

これからも真の課題解決力のある医療人の育成、独創的な研究や高度な医療の提供など、いずれの分野でも最先端を切り拓く強い志と覚悟を持って、積極的に変化を起こし、それを進化に変えて、国内外における本学の価値と存在感を高めてまいります。」

任期は2023年4月1日から3年間となります。



AWARDS CEREMONY

本学教員などが福島医学会各賞を受賞



令和5年1月26日(木)、優れた医学研究を行った研究者に贈られる本年度の福島医学

会賞を、本学附属病院小児腫瘍内科の望月一弘講師が受賞しました。

また、福島医学会学術奨励賞を、医学部循環器内科学講座の佐藤悠助教、同基礎病理学講座の杉本幸太郎講師、同リウマチ膠原病内科学講座の藤田雄也助教の3名が受賞。

さらに福島医学会特別賞を元本学事務局医療研究推進課主事の伊藤純子氏がそれぞ

れ受賞しました。

表彰式は本学で行われ、福島医学会長である竹之下誠一理事長兼学長が一人一人に表彰状を手渡し、同学会で学術研究集会担当幹事を務めるシステム神経科学講座の永福智志教授が陪席しました。

表彰式の後には、受賞者による受賞記念講演会がオンライン配信を併用して開かれました。



ANNOUNCEMENT

3月4日開催

2023年福島県立医科大学 「県民健康調査」国際シンポジウム 「ともに考える福島健康・暮らし・未来」

本学放射線医学県民健康管理センターは、令和5年3月4日(土)9:00~16:30に福島駅前キャンパス多目的ホールにて、2023年福島県立医科大学「県民健康調査」国際シンポジウム「ともに考える福島健康・暮らし・未来」を開催します。

前半では、昨年12月に発刊した日本疫学会誌別冊「福島特集号-東日本大震災後の10年」において初めて論文としてまとめられた、個人の外

部被ばく線量と、健康診査、ここから調査、妊産婦に関する調査との関連など、この10年間の調査によって得られた科学的知見などを分かりやすく紹介します。

後半では、これらの科学的知見の伝え方や、受け手側の情報への接し方など、双方の立場におけるコミュニケーションの在り方について発表・討議します。



当日は会場参加とオンライン(Zoom)を併用したハイブリッド方式にて開催します。どちらも事前申込制となりますので、参加をご希望の方は以下のQRコードよりお申し込みください。

※申込み締切日: 2月26日(日)

申し込みはこちらから



Web site